◎各ご家庭に配布しております。一部ずつお取り下さい。次号『まちかど』4月発行号は休刊です。
「まちかど」カラー版は、品川区役所ホームページからご覧いただけます。https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/

街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

●荏原第一地域新聞●

第208号
令和3年(2021)2月発行
発行・事務局
◎荏原第一地域センター◎
小山3-22-3(〒142-0062)
TEL 3786-2000
FAX 3786-5385

富士山が見えた頃の小山台

その昔、この小山台にも大名の屋敷がありました。屋敷といっても上屋敷、中屋敷、下屋敷、おかかえ屋敷と四種類あります。

後地交差点の一角に、四国は丸亀藩京極越中守の屋敷、小山台一丁目の不動尊わきの石古坂の上、小牧氏宅の一角に松平長門守の屋敷がありました。両方ともおかかえ屋敷です。おかかえ屋敷とは大きな百姓家(庄屋)で、大名の家来たちが国許から江戸へ来た時に泊まる家のことです。幕府は大名を統制するために大名の妻子を人質として江戸に住まわせました。それゆえ、大名は1年間は国許で過ごし、1年目は江戸に住んで幕府のお勤めをすることになっていました。これを参勤交代といい大名は多くの家来を連れて1年ごとに江戸と国許を往復したのです。

大名の連れてくる家来の人数は石高によって決められており、十万石で240人、二十万石で450人、加賀百万石では2500人の家来を連れてきたそうです。参勤交代で逗留した武士たちが、往来したであろうこの道、当時の富士見通り西南方向には、美しい富士山が眺められたとのこと。

遥か昔の小山台の町に想いを馳せた令和2年晩秋である。

※記事は令和2年11・12月作成

【引用】穐山秀男著(2005)「郷土の伝説」(小山台1丁目東・佐藤 年子)

ちょっといい話 ありがとう!清掃員さん

いつものように犬の散歩をしていたある朝のことでした。燃えるゴミの日でした。小さなお子さんが二人いて、いつもきちんとゴミ袋を出しているお家の前に、その日は出ていませんでした。忘れたのかなと思いながら通り過ぎました。

帰り道、そのお家の前に収集車が止まり、清掃員の方がピンポーンとインターホンを鳴らし、声をかけていました。「ゴミが出ていませんよ。今日は収集日ですよ。」「すみません!忘れていました。今出しまーす。」「ゆっくりでいいですよー。大丈夫ですよー。」こんなやりとりが聞こえました。素通りしても不思議でないのに、清掃員さんの配慮はとても素晴らしく思いました。コロナ禍での作業は色々ご苦労されているのに違いないのに、今朝の清掃員さんの心配りと行動に心がとっても温かくなりました。

(中原共和・青木 富代)

花めぐり

ヒイラギ

後地小学校で撮影(11月中旬)

節分に魔除けとして門口に飾られるヒイラギ。葉の縁が鋭いトゲ状で、触ると痛いところから古語のひいらぐ(痛む)木から転じてヒイラギとなったと言われています。秋から初冬に、小さな花が葉の付け根に固まって咲き甘い良い香りを漂わせます。

なお、クリスマスに赤い実と共に飾られるヒイラギはセイヨウヒイラギ(クリスマスホーリー)と呼ばれ、別種の植物です。

さて余談ですが、木へんに冬と書いて柊(ヒイラギ)、木へんに春は椿(ツバキ)、木へんに夏は榎(エノキ)。では、木へんに秋は?楸(音読みはシュウでキササゲ・ヒサギ)キササゲは秋に、ささげ豆に似た実をつける落葉高木です。

(小山1丁目・河原 マサ江)

シリーズ 品川平塚剣友会⑥(2の1)

~平剣の子供達とコロナと戦う1年間~

コロナの脅威に振り回されて暮れようとしている今、平剣の子供達はコロナと戦いながら凛々しく成長しています。

令和元年11月、伝統ある大井剣友会少年剣道大会が浜川小学校体育館で開催され、平剣の子供達が参加し、各々の部で優勝、入賞の好成績を残しました。殆どが防具着用なしの基本の部でメダルを独占する程の勢いでした。その時に子供達と約束をしました。4月になったら防具をつけて稽古をして、来年は防具着用して大会に参加しようねと・・・。子供達は面を着け剣道ができるのに憧れていますから、喜んでいました。

令和2年に入り、新型コロナウイルスが蔓延し始めました。当会でも感染防止対策の一環として稽古の最中に説明を致しました。会員の医療業に永年勤められている夫人にお願いし、マスク着用、うがい、消毒、手洗い等、十数分に及ぶ中、子供達は正座をして熱心に聞き入っていました。その姿を見るにつけ、剣道の礼法を自然と修得しているのに喜びを感じました。しかし、残念なことに、その後、感染防止のため稽古は休止となりました。4月になっても稽古はできず、約束も果たせないどころか、子供達にも会えない寂しい状況でした。

子供達に現状と励ましの絵手紙を無事を祈って投函しました。来たんです、返事が。元気な様子や竹刀の絵だったり、剣道の稽古の絵だったり、遊んでいる様子だったり、みんな元気で居てくれました。早く稽古がしたい、先生身体に気を付けてください、と書かれております。当剣友会の目的はこういう事を普段の生活に活かせるようにと願って指導をしています。剣道で学ぶ特権を見出せると信じております。

(荏原3丁目・池田 晴夫)

高齢者クラブ紹介

千鳥会(小山台一丁目町会)

当クラブは、昭和38年8月1日に小山台一丁目町会敬老会「千鳥会」として設立してから現在に至ります。

今回、まちかど編集委員の方から「千鳥会」の活動を紹介してくださいと依頼がありましたので、紹介させていただきます。

「千鳥会」は主に後地シルバーセンターを利用して活動を行っています。活動は、大きく分けて、ボランティア・健康増進活動・生きがい活動・レクリエーションです。「ボランティア」は、花の植え替え・水やりなど、他に児童見守り、町内のゴミ拾いなど。「健康増進活動」は、輪投げ。最初は子どもが遊ぶものだと馬鹿にしていたのが、5メートル離れたところのピンにはなかなか入りません。今では皆さん夢中になって輪を投げています。他に歩こう会があります。「生きがい活動」はカラオケで好きな歌をうたって満足しています。麻雀は指先と頭を使うので、認知症防止になります。他に踊り、詩吟、宿泊研修旅行があります。「レクリエーション」の新年会は参加者が会場に入りきれない程です。誕生会では会場に入りきれず、前期・後期と2回に分けて行っています。

新年会、誕生会では皆さんで千鳥会の歌や童謡、唱歌をうたって楽しい時を過ごしています。

以上の活動も今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、殆どの活動が中止になっています。

(千鳥会会長・林 正章)